



写真1 上野東照宮 社殿

## 上野東照宮

上野東照宮は、東京都台東区上野公園に鎮座する神社である。1627年(寛永4年)、家康公をお祀りする神社として、東比叡山寛永寺境内に建立された。1646年(正保3年)に朝廷より正式に宮号を授けられ「東照宮」となった。境内は、季節によって春は牡丹と桜の名所として、秋はダリアの特別展示、冬は初詣や牡丹鑑賞など、一年をとおして賑わう。

社殿(写真1)へは、大石鳥居をくぐり、水舎門を抜け、左右を石灯籠が建ち並ぶ表参道を進む。陽の光が当たると金箔の壁がまばゆいばかりに輝く社殿は金色殿とも呼ばれる。社殿の四方を色鮮やかな透塀(写真2)が囲む。上段には野山の動植物、下段には海川の動物が彫刻され、金箔で覆った上から岩絵の具で彩色を施す生彩色と呼ばれる伝統的で豪華な色彩方法で描かれている。高い技術と丁寧な作業が伺える。中段の菱格子は、向こう側が透けて見える意匠が施されおり、透塀と呼ばれる所以となっている。

現存する社殿は、三代将軍・徳川家光公の命により、1651年(慶安4年)、日光に準じた金色殿に建て替えられた。透塀とともに国指定の重要文化財である。これまで関東大震災による倒壊や第二次世界大戦の東京大空襲による焼失を免れてきた。数々の強運から、出世、勝利、健康長寿などにご利益があると信仰され、祈願成就を願う人々が後を絶たない。

<参考>

上野東照宮公式ホームページ

<https://www.uenotoshogu.com/>



写真2 透塀